



篠小だより

～学ぶ つながる 篠原の子～

令和8年6月30日



7月号

〒222-0022 横浜市港北区篠原東三丁目27番1号

TEL045-401-9532

「時」を守る

副校長 金子 京子

子どもたちが大好きな休み時間の終わり、校庭での様子。

3時間目の授業が始まる前になると、子どもたちは昇降口に向かっていきます。篠原小学校は、チャイムが鳴りません。時計を見ながら遊んでいるのでしょう。休み時間が終わる時刻が近づくと、教室にみんな戻っていきます。まだ「時計」の学習をしていない1年生も、担任から「長い針が1になったら戻ります。」と言われていたり、上の学年に「休み時間は終わりだよ。」と声をかけてもらったりしながら、どの子ども教室に戻っていきます。行動の切り替えは簡単なようでも、なかなかたやすくできることではないと思います。

「時間を守る」ことは、「相手を思いやることである」という話を、以前研修会の講師より聞いたことがあります。例えば、授業に遅れてきた子どもがいるとします。やむを得ない事情があったわけではなく、自分の都合で遅れた場合です。その子が戻ってくるまでは心配で、知っている子はいないかと確認をしながら待っています。この、クラスのみんなを待たせることは、待たせている子たちの時間を奪っていることと同じであるということでした。

その時間は返すことはできません。待たせる相手のことを考えると、身勝手な都合で授業に遅れることはできないはずで、相手のことを考える気持ち、「思いやり」が大切になります。私は担任だった頃、必ずクラスでこの話をしていました。

そして、それには、私たち教職員も「時間を守る」ことを意識し、行動していかなければなりません。授業開始時刻はもちろん、授業終了時刻も、下校時刻もです。

あらゆる場面で「時間を守る」ことがなされてきたことが、本校のよい伝統として、チャイムが鳴らなくても休み時間の終わりには、自主的に教室に戻っていく習慣をつくってきたのではないのでしょうか。そして、そのことは「思いやり」の心があるからこそ、実行できるということにもつながっていると思うのです。

さて、2年生の算数「時刻と時間」では、「時」を次の二つの側面から学習します。

「時刻」… 時の流れの一点を示す。今、何時何分などのように。

「時間」… 時刻と時刻の間の大きさ(量)。

あと3週間ほどで夏休みです。家庭で過ごすことが多くなり、学校生活と比べて「時」に対する自覚が薄れる期間でもあります。夏休みに向けて、お子さんと一緒に計画を立てる際に、「何をするか」に加え、「時刻」と「時間」の視点からも話し合ってみてはいかがでしょうか。時計を見て「時刻」を確認し、取り組む「時間」を意識しながら過ごしていけるように。学校生活で、チャイムのない生活を送っている篠原小学校の子どもたちであれば、きっと実行可能と考えます。子どもたちが充実した夏休みが送れるようにと願っています。